

項目	内容
名称	カキ抽出物 (牡蠣抽出物) [英]Oyster [学名]Ostreidae、Crassostrea gigas THUNB. (Ostrea gigas THUNB.)
概要	カキ抽出物は、カキの軟体部 (カキ肉) もしくはカキ殻の抽出物であり、健康食品の素材として利用されている。カキは、イタボガキ科に属する二枚貝で、世界中に多種のカキ類が分布している。マガキ (Crassostrea gigas)、ナガガキ、ケガキ、イタボガキなどがあり、古くから広く食され、養殖も世界各地で盛んに行われている。
法規・制度	<p>■ 食薬区分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カキ (マガキ、ボレイ) 貝殻、貝肉、貝肉エキス：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料)」に該当する。
成分の特性・品質	
主な成分・性質	<ul style="list-style-type: none"> ・カキ肉抽出物の上清に、3,5-dihydroxy-4-methoxybenzyl alcoholが含まれる (2018366783)。 ・牡蠣殻：炭酸カルシウムCaCO₃を主成分 (80~95%) とし、少量のリン酸カルシウムCa₃ (PO₄)₂の他、微量のMg、Al塩、Fe₂O₃などを含む (7)。 ・マガキの軟体部：グリコーゲン、亜鉛、タウリン、アミノ酸、ビタミン、ミネラルなどを含む (76)。
分析法	-
有効性	

	<p>循環器・呼吸器</p> <p>RCT</p> <p>・2型糖尿病患者30名(試験群15名、平均58.5±8.4歳、日本)を対象とした二重盲検プラセボ対照試験において、マガキ由来カキ肉抽出物3 g/日を12週間摂取させたところ、酸化関連マーカー(尿中8-OHdG)生成速度に影響は認められなかった(2009140116)。</p>
	<p>消化系・肝臓</p> <p>調べた文献の中に見当たらない。</p>
<p>ヒト</p>	<p>糖尿病・内分泌</p> <p>調べた文献の中に見当たらない。</p>
<p>で</p>	<p>生殖・泌尿器</p> <p>調べた文献の中に見当たらない。</p>
<p>の</p>	<p>脳・神経・感覚器</p> <p>調べた文献の中に見当たらない。</p>
<p>評</p>	<p>免疫・がん・炎症</p> <p>調べた文献の中に見当たらない。</p>
<p>価</p>	<p>骨・筋肉</p> <p>調べた文献の中に見当たらない。</p>
<p></p>	<p>発育・成長</p> <p>調べた文献の中に見当たらない。</p>
<p></p>	<p>肥満</p> <p>調べた文献の中に見当たらない。</p>
<p></p>	<p>その他</p> <p>調べた文献の中に見当たらない。</p>

参考文献

(91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS).

(7) 中薬大辞典 小学館

(76) 日本食品大事典 医歯薬出版株式会社

(2009140116) Prog Med. 2009;29:(2):471-6.

[\(PMID:12396966\) Allergol Immunopathol \(Madr\). 2002 Sep-Oct;30\(5\):300-3.](#)

[\(PMID:25946773\) Isr Med Assoc J. 2015 Mar;17\(3\):188-9.](#)

(2018366783) 薬理と治療. 2018;46(3):383-91.